

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

東京都 板橋区

自治体名：東京都板橋区

担当課名：教育総務課

電話番号：03-3579-2261

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	32.22 km ²
人口	578,456 人
公立中学校数	22 校
公立中学校生徒数	9,350 人
部活動数	306 部活 (運動部：180)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、板橋区では180の運動部活動が活動している。本区において、少子化の影響はあまり顕在化していないが、学校間の部活数の差が最大で13部もあり、一部の学校では団体種目などで部活動の停滞が既に起きている。

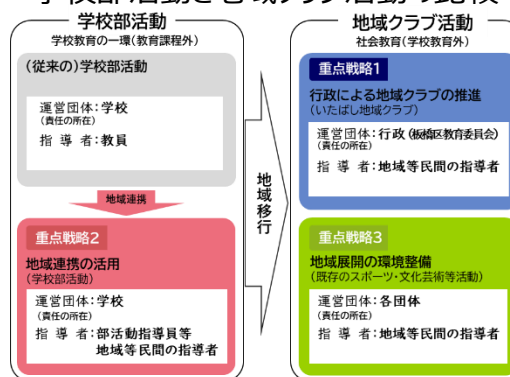
また、令和5年度に教員を対象として実施したアンケート調査では、約8割の教員が部活動の顧問として負担を感じていると回答。教員の献身的な支えによる学校部活動の維持には限界があり、持続可能性が低下している状況である。

そこで、部活動を持続可能な取組とするため、本区では、令和5年度に「板橋区立中学校部

活動地域移行検討会議」を設置し、2030年時点で実現したい将来像を設定する「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030（以下、地域移行推進ビジョン2030）」を策定。「行政による地域クラブの推進」「地域連携の活用」「地域展開の環境整備」を重点戦略として設定し、地域移行推進ビジョン2030と合わせて、改革推進期間である令和7年度までの「板橋区立中学校部活動地域移行実施計画2025」を策定。

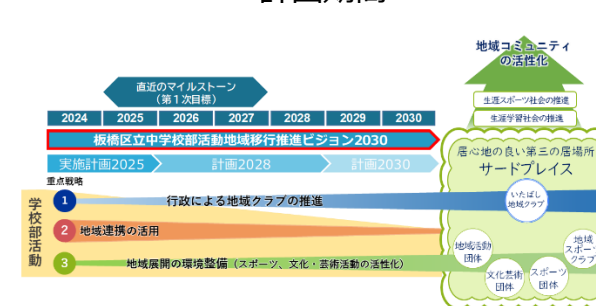
行政による地域クラブ「いたばし地域クラブ」を立ち上げ、令和5年5月より活動している。

学校部活動と地域クラブ活動の比較



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030

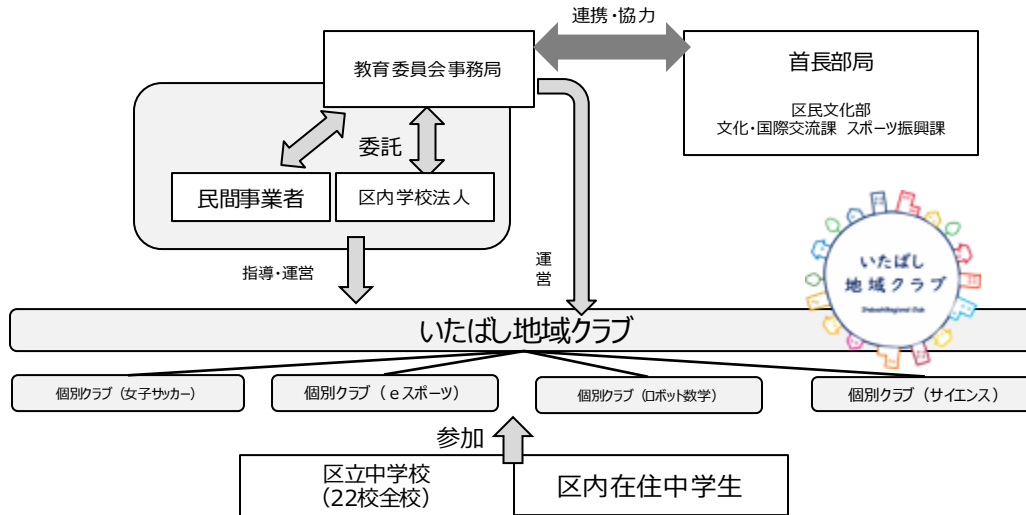
計画期間



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・いたばし地域クラブの運営及びデータ・知見・課題の整理
- ・既存学校部活動のいたばし地域クラブ化に向けた調整
- ・機運醸成のための「部活動地域移行シンポジウム（以下、シンポジウム）」の開催

◎首長部局

- ・区内スポーツ、文化芸術団体をはじめとした地域人材を活用した地域移行への枠組みの検討

年間の事業スケジュール

令和6年4月

- ・「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」を各校に配布
- ・いたばし地域クラブの参加者募集
- ・いたばし地域クラブ保護者説明会

令和6年5月

- ・いたばし地域クラブ活動開始（令和6年度新規加入者）
- ・板橋区立中学校部活動の実態調査（学校向け）

令和6年8月

- ・第1回シンポジウム（中学生サミット）
- ・第2回シンポジウム

令和6年12月

- ・第1回いたばし地域クラブアカデミー実施

令和7年1月

- ・令和7年度に向けた保護者説明会

令和7年2月

- ・いたばし地域クラブ体験会（小学6年生対象）

令和7年3月

- ・第3回シンポジウム
- ・第2回いたばし地域クラブアカデミー実施
- ・事業完了報告書・成果報告書等の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	22校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
女子サッカークラブ	民間事業者運営型	サッカー	週1回	09:00 ～ 11:00	9年 5名 8年 5名 7年 2名	通年	区立中学校	2人	1人 (内、兼務0人)	月会費 2,000円	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

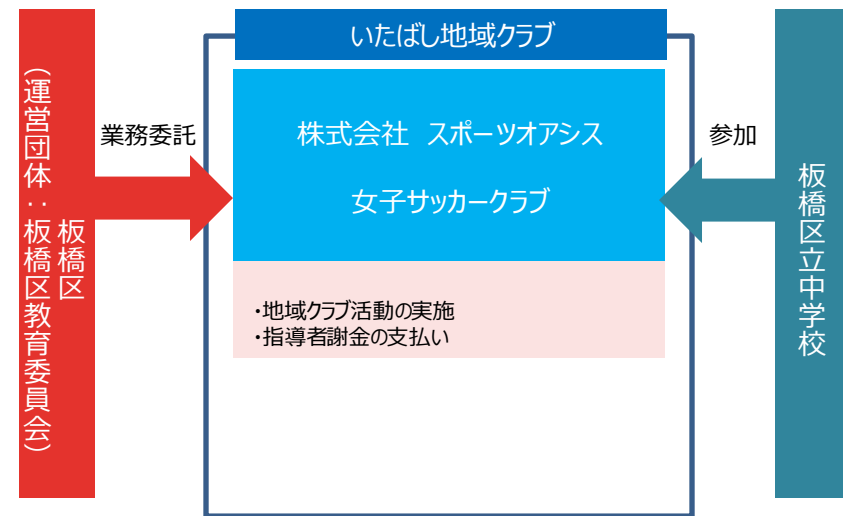
- いたばし地域クラブ体験会

主な取組例

●女子サッカークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	板橋区教育委員会
期間と日数	通年 週1回程度
指導者の主な属性	委託先職員
活動場所	板橋区立上板橋第一中学校
主な移動手段	公共交通機関
1人あたりの参加会費等(年額)	24,000円
1人あたりの保険料	約798円/年(一括契約)

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
 - 役割：運営団体(区教委)との調整、活動報告を行う
- 指導者 2名
 - 役割：生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○令和5年度に実践研究モデル事業として実施した「いたばし地域クラブ」を本格実施とし、部活動地域移行の課題・地域クラブ活動の運営にあたっての課題を着実に把握・検討すると同時に、中学生の活動の受皿となり、活動機会を確保する。

取組の成果

○行政が運営団体となり「いたばし地域クラブ」を運営し、令和6年度は1つのスポーツクラブを実施した。

- ・女子サッカークラブは、民間の女子サッカーチームと練習試合を実施することができた。
- また、高校の女子サッカー部など合同練習も実施し、他のチームとのつながりを広げている。
- ・令和6年10月まで納付書払いによって行っていた会費の徴収を口座振替にすることで、保護者の負担を軽減することができた。
- ・これまで個別クラブによって、導入の有無を含め分かれていた運営管理システムを、令和7年度より統一の運営アプリを利用することになった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

板橋区ではコーディネーターは配置しない。

今後の課題と対応方針

- 順調に活動運営をできた一方で、定員を満たしていないことが課題となっている。
- また、中学生をはじめとした区民にまだまだ認知されていない状況であるため、広報プロモーション活動により力を入れて取り組む。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

○指導の質を一定に保ち、体罰やハラスメントを防止する。特に、区が運営団体となる「いたばし地域クラブ」においては、定期的に区職員が視察し、不適切な指導がないかを確認するとともに、適切な指導方法を研究していく。

○部活動や地域クラブ活動の指導者が指針とするものとして、東京都の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」があるが、指導者の適性を担保するための研修内容について研究を行う中で、「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」の策定を検討する。

また、令和6年度より部活動指導員の人数を3名から44名に増員するため、部活動指導員も合わせての研修を検討する。

取組の成果・今後の課題と対応方針

○いたばし地域クラブにおいては、区職員が定期的に視察し、指導者やスタッフとの意見交換を行うことで課題の整理に努めた。

また、委託事業者と定期的に意見交換を行い、改善を図ってきた。

●「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」については、現在指導運營業務を委託していることもあり、早急に策定する必要がなかったことから、策定に至っていない。文化クラブではなくスポーツクラブだが、令和7年度より中学校野球部を全面的に野球クラブへ移行するため、区職員が積極的に関わりながら、指導者向け手引きやガイドラインの策定を改めて検討していく。

●現在指導運營業務を委託していることから、部活動指導員と合わせての研修は実施できていないが、上述のとおり引き続き検討を進める。

（部活動指導員への研修は7月31日に実施）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- スポーツ、文化芸術団体、保護者や教員と部活動の地域移行について共通理解を深め、機運を醸成する場として、「部活動地域移行シンポジウム」を開催する。
- 民間のスポーツ、文化芸術活動等を紹介するガイドブックを作成する。
- 中学生が安心して参加できるよう、適切な指導・運営の基準を定め、団体の登録・認証する制度の研究を進める。
- 上記の取組にあたり、スポーツ、文化芸術団体との協議、連携強化を積極的に行う。

取組の成果・今後の課題と対応方針

- 部活動地域移行シンポジウムを開催し、多くの関係者と意見交換をする機会を得ることができた。部活動は学校が主体となってやるべきか、様々な立場や視点から意見交換をすることで、地域移行の必要性について理解を深めることができた。
- また、いたばし地域クラブ会員の保護者にもシンポジウムに参加いただき、いたばし地域クラブに子どもを参加させて良かったとの意見をいただくことができた。
- 民間のスポーツクラブ・文化芸術活動を紹介するデジタルガイドブックを作成し、区立中学校の生徒が使用する一人一台端末へ配信したが、紹介に至ることのできたクラブ等が少なく、今後順次増やしていく必要性を感じている。
 - 団体の認証制度については、他自治体の先進事例を参考にし、今後研究を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

○種目・分野の技術の習得や向上のみを目的とせず、参加者同士の交流を促進し、主体性を育むことを目的に定期的なミーティングを行うほか、レクリエーション的な活動を取り入れたクラブ活動を運営する。

活動の詳細

「地域スポーツクラブ活動の運営実績 ②各クラブに関すること」参照。

取組の成果

- 普段の活動からも参加者同士の交流が図れており、交流大会などにも参加できている。
- 他のチームと練習試合や合同練習を実施することで、つながりが広がっている。
- プロの公式戦を観戦することで、参加者のモチベーションが向上している。

今後の課題と対応方針

- 夏場の室内の練習場所を定期的に確保する必要があるため、近隣学校の体育館利用などを調整していく。
- 練習量を増やしたいとのニーズがあるため、練習回数の増加について検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○「いたばし地域クラブ」に参加する困窮世帯に対して、必要な経費の支援を検討する。

取組の成果

○困窮世帯（就学援助認定者）を対象に支援金を支給する制度を検討した。

しかし、「学校部活動」と「地域クラブ活動」区別は明確であるものの、「地域クラブ」がどのような定義のものを指すこととするのかが曖昧であることから、制度の見直し及び内部調整などが引き続き必要となった。

今後の課題と対応方針

- 現段階では、地域クラブ活動は学校部活動ではない諸活動という曖昧な線引きになっている印象を受ける。今後の国の動向や情報を収集し、「地域クラブ活動」とは何か定義を明確にしたうえで、どの活動が支援すべき「地域クラブ活動」に定義されるものであるかを再検討する必要がある。
- 他自治体の先進事例等も参考にし、今後研究を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○現行部活動の合同部活動化を推進し、学校施設利用の調整を行う。

取組の成果

○他の業務に時間を要し、合同部活動化に向けて学校との調整ができず、成果は上げられていない。

○一方で、地域移行の取組を進めるにあたり、学校ごとの調整がうまくいかず試合や大会に参加できないままとなっている部活動が実際にあることも判明した。

○また、特に生徒数の多く校庭の面積が小さい学校では、十分とはいえないスペースで3～4の部活動が活動をしている実態もあり、充実した活動には施設利用の整理も必要な要素であることが判明した。

今後の課題と対応方針

- 部活動を実施する時間帯に学校施設以外の活動場所を十分に確保することが難しい実態がある。
- 部活動及び地域クラブ活動ごとに適正とされる場所の面積や人数を改めて見直し、充実した活動とするためにはどのような整理が必要かを検討する必要がある。
- 合同部活動だけでなく、現行部活動を廃部し、その空いた場所を同様に地域クラブの活動場所として利用していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和5年度より実践研究モデル事業として実施している「いたばし地域クラブ」が2年目となり、地域クラブ活動の運営にあたっての課題を把握し、検討することでノウハウを蓄積できてきた。

しかし、一方で、課題の多くは、解決まで至っていない、今後も検討していく必要がある。

特に、各クラブともに定員を下回っており、区立中学校生徒にヒアリングした際にもまだ認知度が低く、広報活動に力を入れ認知度を上げていく必要があるとともに、地域クラブに入会する利点を生徒が見出せるような工夫を引き続き検討していく必要がある。

また、各クラブともに週1回から2回程度の活動であるため、現行部活動との兼部をしている中学生が多く、部活動の代替、部活動に置き換わる活動にはなれていない。

●成果の評価

行政が運営団体となった地域クラブの活動しての形は、一定程度作りあげることができた。

また、現行部活動との兼部をしている中学生が多いということは、複数種目・分野に取り組んでいる環境にできているということでもあり、今後も区としてそういった環境を提供していけるよう整備を続けていきたい。

●今後に向けて

現行の部活動を地域クラブに移行するための調整を引き続き検討し、中学生が継続的にスポーツに親しみ活動していく機会を確保する。

一方で行政が運営団体となる地域クラブは現行の学校部活動の運営団体を行政に置き換えた形でもあり、地域のスポーツ文化芸術環境の進展とのつながりが民間地域クラブと比較すると少ない傾向にある。民間地域クラブへの地域展開に向けての環境整備にも注力する必要性を感じた。

参加者の声

【出典：区広報紙での特集】



中学8年生（左）

小学6年生の時にサッカー日本代表の試合を観戦し、自分もやってみたくて思いました。仲間と協力してゴールを決められた時はうれしいです。

中学8年生（右）

女子だけでプレイできる環境があったので入部しました。他校の生徒とも仲良くなれるところが楽しいと思います。このチームでもっと強くなりたいです。

指導者

何事にもチャレンジする姿勢を優先しながら、生徒がなぜこの練習が必要なのか、理解できるように指導しています。また、コミュニケーションや発言する機会も大切にしています。サッカーの基本的な技術はもちろんですが、クラブ活動を通じて人としても成長できるような環境を築きたいと思っています。



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【練習①】



【練習②】



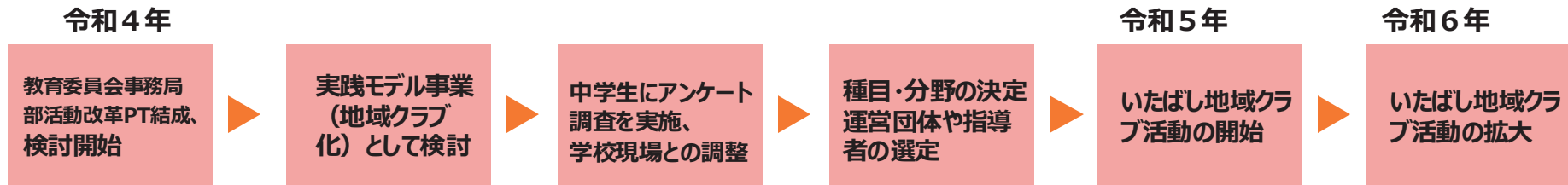
【練習③】



【ミニゲーム】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、生徒、保護者、板橋区教育委員会事務局、民間事業者

経 過

令和4年度に教育委員会事務局の職員で部活動改革PTを結成し、改革に取り組み始めた。現行の部活動にある種目・分野を地域クラブ化することは、学校及び生徒、保護者への説明も十分でない中では影響が大きいと判断したため、現行の部活動にない種目・分野をモデル事業として取り組んでいくこととした。そのため、種目・分野を決定するにあたり、区立中学校の全生徒にアンケート調査を実施した。

その後、立ち上げるクラブの種目・分野を決定し、運営団体の選定を行い、令和5年度に「いたばし地域クラブ」の地域クラブ活動として、「女子サッカー」「eスポーツ」「ロボット数学」の3クラブの活動を開始した。令和6年度には、さらに「サイエンス」を創設し、活動を拡大した。

実施にあたって生じた主な課題

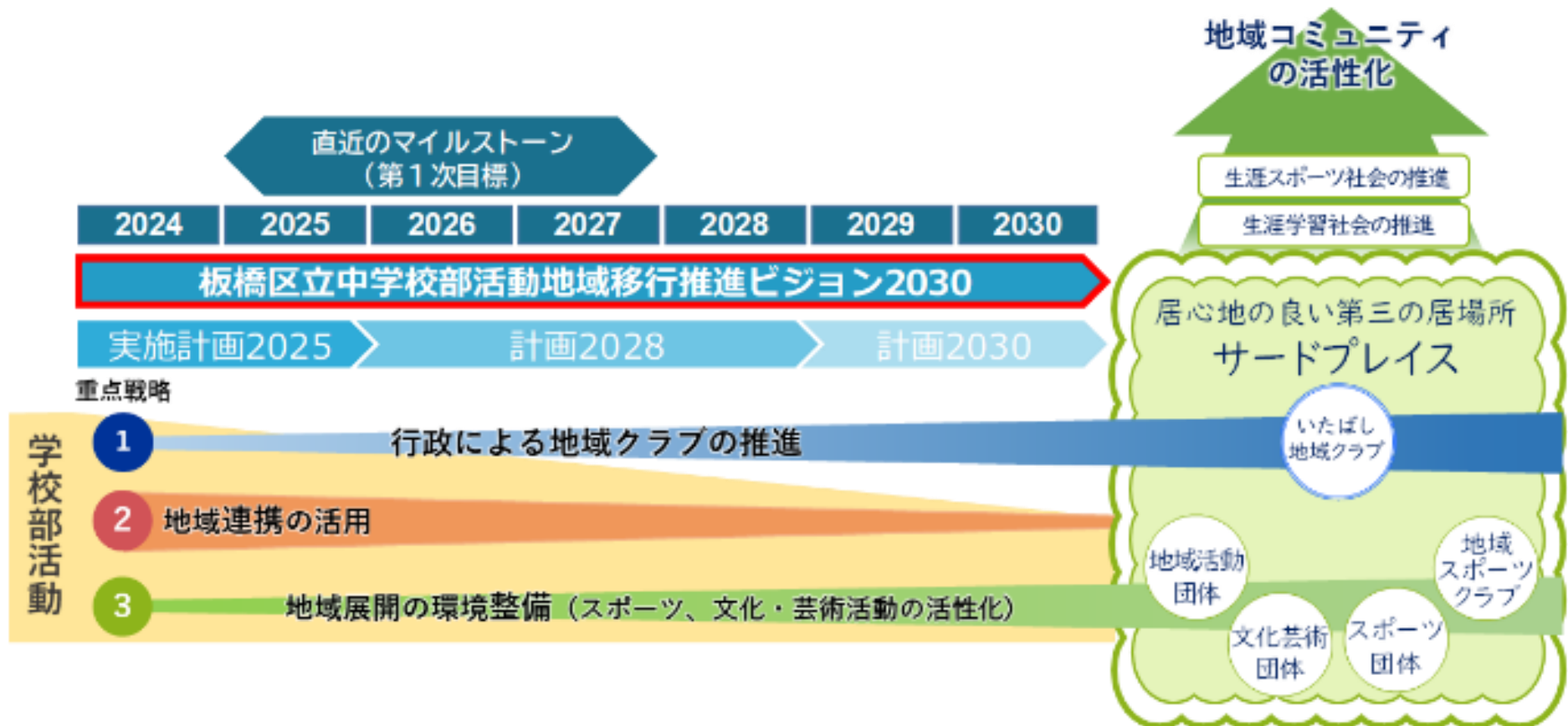
- ・活動場所の確保と選定
- ・指導者の確保
- ・学校現場との調整
- ・会費の設定

今後の展開

令和7年度からは、現行の学校部活動にある種目「野球」の地域クラブ化に取り組んでいく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030